

## 自治体アンケート調査にもとづく日本における諸都市の国際化の現状

九州大学 正会員 梶田 佳孝 九州大学 フェロー 梶木 武

## 1. はじめに

都市の国際化を推進し、国際都市として発展するには、それぞれの都市の個性と民族性を保持しつつ、多様な民族文化を融合させ、民族間の交流を形成することである。また、国際的な視野で発生する都市活動、都市づくりの基本的な共通課題に対処しながら、都市発展を目指すことが求められる。しかしながら、都市の国際化は、それぞれの都市において異なっており、都市の国際化の内容とその相手により合理的な判断が必要である。

本研究は、国際化に関して日本の各都市が、どのような方向性や考えを持っているのかを意識調査し、各都市がいかに国際都市への脱皮を図ろうとしているのかを明らかにせんとするものである。

## 2. アンケート調査の概要

日本の諸都市の行政担当者を対象に、都市の国際化に関するアンケート調査を行った。調査票は平成 10 年 7 月 7 日～8 月 10 日にわたり配布をした。配布、回収とも郵送による方式を採用したが、有効回収枚数は 57 枚で、有効回答率は 67.1%である。質問項目は①街づくりの重点施策②国際化、国際交流及び国際連携に対して特に期待すること③国際化、国際交流及び国際連携を推進する上での不安や問題④各都市が国際化、国際交流及び国際連携で着手する分野であるが、

表-1 国際化、国際交流及び国際連携に対する期待

|      |       |                   |       |      |        |                  |       |
|------|-------|-------------------|-------|------|--------|------------------|-------|
| 国際化  | I-1   | 国内外の学術機関の誘致       | 1.2%  | 国際交流 | II-11  | 外国の研究機関等との相互交流   | 3.3%  |
|      | I-2   | 留学生受け入れ体制の充実      | 9.1%  |      | II-12  | 国際交流の体制づくり       | 11.8% |
|      | I-3   | 連絡会議の設置           | 5.3%  |      | II-13  | 海外都市との友好関係確立     | 13.8% |
|      | I-4   | 相談窓口の設置           | 15.2% |      | II-14  | 国際会議、イベント等の誘致    | 2.8%  |
|      | I-5   | サインシステムの導入        | 3.7%  |      | II-15  | コンベンションの誘致       | 0.4%  |
|      | I-6   | 住宅の整備             | 0.8%  |      | II-16  | 市民ボランティアの育成・支援   | 19.5% |
|      | I-7   | 就労環境の整備           | 1.6%  |      | II-17  | 国際交流に関わるシステム確立   | 11.4% |
|      | I-8   | 技術者・労働者の受け入れ体制    | 1.2%  |      | II-18  | 通訳等の市民による協力体制づくり | 3.3%  |
|      | I-9   | 文化人の受け入れ体制        | 1.6%  | 国際連携 | III-1  | 観光資源の整備・充実       | 9.7%  |
|      | I-10  | 住環境整備や国際都市イメージ確立  | 20.2% |      | III-2  | 海外における観光PR等      | 4.8%  |
|      | I-11  | 個性ある街づくりの推進       | 5.3%  |      | III-3  | 国際的共同研究          | 8.6%  |
|      | I-12  | 国際水準の居住空間づくり      | 0.4%  |      | III-4  | 海外技術協力推進体制の整備    | 8.6%  |
|      | I-13  | 国際理解教育、外国語教育の充実強化 | 17.3% |      | III-5  | 研究開発機能の拡充・強化     | 4.8%  |
|      | I-14  | 市民の国際理解           | 15.2% |      | III-6  | 主要支援組織の整備        | 5.4%  |
|      | I-15  | 国際的な開発プロジェクト      | 1.6%  |      | III-7  | NGO支援システムの構築     | 11.3% |
| 国際交流 | II-1  | 空港の機能強化           | 0.8%  |      | III-8  | 保険医療に対する多言語化     | 7.0%  |
|      | II-2  | 国際線の新設、路線拡充       | 2.8%  |      | III-9  | 医療技術者の派遣         | 1.6%  |
|      | II-3  | 国際的な航空貨物機能の導入促進   | 0.4%  |      | III-10 | 技術協力と連動した物資協力    | 3.2%  |
|      | II-4  | 国際貿易港の整備促進        | 1.6%  |      | III-11 | 地球規模の環境問題の解決     | 14.5% |
|      | II-5  | 国際的な流通拠点          | 2.0%  |      | III-12 | 自然・生活環境問題への取り組み  | 10.8% |
|      | II-6  | 空港、港のアクセス強化       | 3.3%  |      | III-13 | 物資の輸送            | 1.6%  |
|      | II-7  | コンベンション等の整備推進     | 6.9%  |      | III-14 | 自然災害による物資の輸送     | 4.8%  |
|      | II-8  | 中枢都市機能の拡充・強化      | 4.1%  |      | III-15 | 国際的な金融システムの整備    | 1.6%  |
|      | II-9  | 情報拠点機能の強化         | 4.5%  |      | III-16 | 工場誘致             | 1.6%  |
|      | II-10 | 情報基盤の整備           | 7.3%  |      | III-17 | 大規模小売店の誘致        | 0.0%  |

ここでは、②に関して分析を行い、都市が国際化、国際交流及び国際連携に対し、どのような意識や考え方を持っているかを明らかにするものである。

対象都市は各都道府県の県庁所在都市及び人口 30 万人以上の都市、それに九州の地域中心都市を加えた 85 都市である。これは、国際交流の効率的な推進にはある程度の規模が必要であることや 30 万人未満の都市が全都市の 90%を越えているためである。また、都市の国際化とは、狭義の国際化、国際交流及び国際連携に分けることができる。すなわち、国際化とは、都市の諸施設や活動内容、規則等を国際基準に合わせることである。国際交流は国際的に人や物、情報があふれ、相互理解を深めながら交流することである。さらに、国際連携は都市における活動に関して国際的なネットワークを組み立て、お互いの連携を図ることである。

## 3. 国際化、国際交流及び国際連携に対する期待

まず、国際交流及び国際連携に対して興味を持っているかどうかという質問に関して、国際交流では、57 都市中 55 の都市(96.5%)が、国際連携に関しては、49 の都市(86.0%)が興味を持っていると答えている。これらのことから、ほとんどの都市が国際交流及び国際連携に興味を持っていることが理解できる。次いで、各都市が国際化、国際交流及び国際連携に対する期待

を項目別に集計すれば表-1 が得られる。各都市が国際化により期待する主な項目は、「住環境整備や国際都市イメージの確立(21%)」、「国際理解教育、外国語教育の充実強化(20%)」等があげられる。これらは、国際化に対応した街づくりと国際化社会を担える人材育成を重要視している内容であるといえる。

